平成２２年度病害虫発生予察特殊報第１号

平成２２年４月２８日
愛　　知　　県

１　病害虫名：**アオグロヒラタゴミムシ(オサムシ科)**
Agonum chalcomus (Bates)

２　発生作物：**イチゴ**

３　発生地域：**尾張地域**

４　発生確認の経過

平成22年２月下旬、尾張地域のイチゴ施設土耕栽培ほ場において、体長1cm弱のゴミムシ類の成虫がイチゴ成熟果実の先端を食害するのを確認した。

３月上旬に病害虫防除グループで発生状況を確認したところ、イチゴ株元の黒マルチ下や畝間に敷かれた稲ワラの下などで多数のゴミムシ類を確認した。

滋賀県立琵琶湖博物館八尋克郎博士に本種の同定を依頼したところ、甲虫目オサムシ科のアオグロヒラタゴミムシと同定された。

発生を確認した農家は１戸で、被害を確認できたほ場は１ほ場(10a)のみであった。同一農家の別のイチゴ栽培ほ場では、本ゴミムシの発生は確認していない。

５　形態・生態及び被害状況

成虫の体長は7～8.5mm、体は扁平。頭胸部背面は濃い緑銅色、上翅は暗褐色で弱い銅光沢がある。北海道から本州、四国、九州にかけての平地で普通にみられる。本種は成虫で越冬していると思われるが、幼虫の生息場所等詳しい生態はわかっていない。

イチゴへの加害は成熟果実に多く、未成熟果実にはほとんどみられなかった。被害はマルチに接した側に集中しており、果実裏面を加害されることが多かった。２月下旬から急に被害が見られるようになり、ピーク時には収穫果実の約５０％に本種による食害が認められた。

ゴミムシ類によるイチゴ果実の加害は、マルガタヒラタツヤゴミムシによるものが平成 15 年に福岡県で、ハラアカモリヒラタゴミムシによるものが平成 16 年に長崎県、平成 21 年に福岡県からそれぞれ報告されているが、本種による加害例の報告はこれまでにない。

６　防除対策

現在、イチゴにおける本種に対する登録薬剤はない。本種が発生した場合、成虫を捕殺し密度低下に努める。

７　連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除グループ
電話　０５６１－６２－００８５　内線４７１

図１　イチゴ果実の被害

図２　稲ワラ中に生息するアオグロヒラタゴミムシ成虫